

教員名	天羽正継	所属学科	経済学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>当ゼミは、主として政府の経済活動である財政について学ぶゼミです。具体的には、財政学の基礎知識理論を学ぶとともに、それに基づいて現在の日本の財政問題について考えていきます。さらに財政にとどまらず、社会が抱える様々な問題について広く考える機会を設けています。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>2年生では、財政学の教科書を輪読し、財政学の基礎的な知識を身に付けることを目指します。具体的には、各回のメンバーの持ち回りで報告者を決め、レジュメを作成し、報告してもらいます。その際、読んでいて生じた疑問点や、さらに発展して議論すべき論点を提示してもらうとともに、コメンテーター役のゼミ生メンバーからも、報告者に対して、コメントや質問をしてもらいます。</p> <p>3年生では、様々な財政問題を扱った文献を取り上げ、それらについて輪読と議論を行います。さらにサブゼミとして、ゼミ生同士でいくつかのメンバーの関心ごとにグループを作り、共同研究を行います。その成果はゼミ内で報告してもらうとともに、学内外の研究会や合同ゼミなどで報告してもらいます。ここ数年は、群馬県内の市町村財政分析に取り組んでおり、その成果を論文集としてまとめています。</p> <p>4年生では、ゼミでの勉強の集大成として、各自が問題関心を持つテーマについて卒業論文の執筆に取り組んでももらいます。こちらも毎年度、論文集としてまとめており、上記のサブゼミ論文集とともに図書館で閲覧可能です。</p> <p>以上の他に、合宿や見学会なども、メンバーの希望に基づいて随時実施し、様々な形の「学び」を経験してもらいます。『日本経済新聞』を教材として取り入れており、様々な記事についてゼミ生同士で議論することで、社会に対する幅広い視点を養います。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>財政は政治、経済、社会と、様々な領域に関係するものですから、卒業後にどのような仕事に就こうとも、財政学の知識や考え方が役に立つことになると思います。</p> <p>また、一つの事柄をめぐる意見や考え方は、人によって実に様々です。財政問題をめぐる議論を通じて、ものの見方には多様性があることを知り、将来社会人として生きていく上で必要となる「柔軟な思考力」を身に付けます。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <p>植田和弘・諸富徹編『テキストブック現代財政学』有斐閣ブックス、2016年。 安富歩『生きるための経済学 〈選択の自由〉からの脱却』NHKブックス、2008年。 金子勝『資本主義の克服 「共有論」で社会を変える』集英社新書、2015年。</p>			
<p>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</p> <p>大学での勉強は高校までの勉強とは異なり、教えてもらった知識を受動的に教えてもらうだけ身に付けるのではなく、自ら主体的に学び、考えることがメインになります。しかし、現実の世界では自らの力で考えることのできる人々は少なくないことが、そのことが様々な社会問題の背景にあると思います。当ゼミは、そのようなそうした自ら考える力を身に付けたいと考えている方を歓迎します。</p>			